

秋。空がぐんと高くなり、ニットの季節になりましたね。艶緑の葉に花火のような黄色のツワブキが咲いていました。

昨年、この落ち葉の季節に工場がスタートし、始まった中央線での山梨通い。車窓は、落ち葉から雪景色に変わり、年が明け春の芽吹きに感動し、目に染みる新緑から季節が巡ってそろそろ色づき始め一年が経った事を実感します。自然いつばいの車窓からの眺めは貴重な気分転換と原稿書きの時間でした。

十月二十四日、この通信で連載している『カシミアとニットの話』の本が織研新聞社より出版されました。ニットが出来上がるまでの、原料、糸、製造のことやニットにまつわるエピソードを一冊の本にしました。副題が、『ファッション販売員のための』とついているように、毎日お店で販売をされている皆さんに楽しくニットの基礎知識を身に付けて頂いて、ニットのよさやカシミアの素晴らしさをお客様に伝えて欲しいという思いで書いてみました。

【カシミアとニットの話】
宇土寿和著・織研新聞社発行
B6判・192頁
定価1600円



紀伊国屋のような大手書店にしか置いてないので出来たらネット販売等で購入して頂き、多くの方に読んでいただければ嬉しいです。ヤフーやアマゾンなどで『カシミア 宇土』で検索すると簡単に出ます。送料はほとんどのサイトが無料で届けるようですよ。

【出版記念キャンペーン】

UTOのカシミアを実際に着用してもらいたい。その切っ掛けになるようにこの本の表紙にも使われた天使のシヨールをサービスさせて頂くことにしました。この天使のシヨールはマフラーとして使ったら、軽くて柔らかく、首に当たる感が抜群に素晴らしいUTO一番の売れ筋です。『一番の売れ筋商品』を、売れる時期に、低掛け率が『一番のサービス』と考えます。これならもし残っても来年もずっと販売していただける商品です。



ツワブキ

【営業スタッフ募集】

UTOでは、明るく元気で営業が好きな人を募集しています。男女、経験は問いません。(経験者、能力により優遇)

【南青山界限】 UTOはこんな街から発信しています
表参道は云わずとした明治神宮の宮前商店街

明治神宮

表参道は今や東京の中でも屈指のファッション街になっていますが、元々は明治神宮の正面参道。地下鉄の駅名も表参道ですが、1972年(昭和47)までは神宮前という名前でした。平たく言えばここは明治神宮の宮前商店街なんです。

参道が始まる青山通りの角には大きな石の灯籠があります。左側の鳥居の前のみずほ銀行は神宮が出来た頃には富士銀行の前身の安田銀行としてここにありました。この前は昼間は待ち合わせの人でいつもいっぱい。向かい側は交番で、この交番も道を尋ねる人がひきも切らないほど忙しい交番で、一日に何人来るんだろうと思うくらいです。

ここから参道は緩やかな下りで両側は有名なケヤキ並木。右側は二月にオープンした表参道ヒルズ、左側はシャネル・ルイヴィトンなどヨーロッパの超一流店が続きます。ずっと下り坂で明治通りが一番低く、ここには昔は渋谷川という川が流れていました。その先は原宿駅までゆるい上りです。神宮の入り口は原宿駅の奥で青山通りの入り口から約1キロの参道ということになります。



明治天皇

が崩御された後、大正9年11月1日、政府は原宿の裏に70万平方メートルの人造林を作って明治神宮を作ったんですが、この広大な敷地の大半は幕末に桜田門外の変で暗殺された彦根藩主の大老井伊掃部頭直弼(いいかもんのかみなおすけ)の下屋敷跡なんです。

明治以後になってこの一帯は代々木原と呼ばれ、軍の練兵場、戦後はアメリカ軍がワシントンハウスとして進駐軍住宅にしていたという経緯があります。

神宮内苑に清正井戸というきれいな湧き水があります。この井戸は渋谷川の水源の一つです。小さな湧き井戸ですがどうして加藤清正の名前が付いているんだろうと不思議だったんですが、此処も皇居の桜田門外にある井伊邸の敷地も徳川家康が江戸に入ってまもなく加藤清正に与えたものだそうです。ところが清正が亡くなった後、加藤家は取り潰されて、後に両方とも井伊家に与えられたという経緯があるそうです。

この湧き井戸の横が切手の絵柄にもなった有名な明治神宮の菖蒲園です。5月の連休が終わった頃、深い神宮の森の中の菖蒲園は色とりどりの花が咲き競い、東京の渋谷区とは信じがたいほどの別世界です。ちなみに渋谷区の花は花菖蒲。

神社と言えば『鎮守の森』明治神宮の森もそうとうした森になっていますが、ここは代々木原と呼ばれる殆ど裸の広場に約360種9万本の木が植樹されたものだそうです。それらの木々は国内はもろろん当時の植民地だった樺太、満州、朝鮮半島、台湾からも献木されたそうで現在は約250種17万本の木々が育っているそうです。献木された木々を植栽するために1万人以上の若者が奉仕して植えたそうです。

神宮の森と参道のケヤキ並木は東京の貴重な緑として貢献しています。

今年の正月も明治神宮は初詣の人が310万人という参詣者で賑わったそうです。

■ 駐前開きベスト
No. 2567 ¥45,000.-

シンプルなシルエットに大き目の紐が3個。ちょっと羽織るのにもいいし、上から太いベルトをしたり、工夫次第でいろいろなコーディネートが楽しめる駐前開きのベストです。

■ 配色Vカーデ
No. 2227 ¥53,000.-

一見普通に見えるシルエットながら前立部分に繊細な配色を入れ、袖口と裾のリブは短めで、深いVゾーンがポイント。コーディネートの妙味を引き出してくれます。

■ ファスナー付きブルゾン
No. 1660 ¥63,000.-

分厚く贅沢な7ゲージ天竺編み。上下開きのファスナー。布帛のジャケットやブルゾンに比べると、とにかく軽く柔らかい。これこそカシミアニットならではの。(男女兼用)

* ファッション販売員のための ニットの話 * (二十)

風合いもUTOのこだわり

デザインごとに違う風合いの出し方

織研新聞常務取締役の阿部さんに聞いた話ですが、イタリアのスーツを作っているメーカーで、試着だけを仕事にしている人がいるそうです。

毎日毎日スーツに袖を通して出来上がったスーツの着心地をチェックするんだそうです。袖を通した途端に『チョットここが違うとか、不自然とか』服の出来具合が分かるそうです。そして、『今日は何事もなかった』というのが一番いい仕事が出来た良い日で満足感を覚えるという話でした。数字や見た目には表れない着心地はとっても大事なことだと思います。

『私はヨーロッパのカシミアの風合いが良い』とか、『イギリスのカシミアがやっぱり一番』という人がいらっしやいます。その人のお気に入りが入りがヨーロッパのどこかのメーカーやイギリスのメーカーが作ったものだったんでしょね。でもカシミアセーターの製造工程を理解していたらヨーロッパとか日本とかの違いではなくブランドごとや品番ごとに風合いは違うということが解ると思えます。

風合いの違いはデザインの違いと同じようにそのブランドがどんなこだわりをもってどんな風合いにするかも主張の一つなんです。皆さんが店頭で手にしたときに、『如何にも柔らかくフワリしているもの』や、『カシミアの柔らかさは有るけどちょっとコシが強い』等々、慣れてくるとカシミアにも色々な風合いの商品があることを理解されると思います。

風合いの出し方にはいろいろな方法がありますが大きなポイントには二つです。それは編地の度目(どもく)と縮絨(しゆくじゆう)です。

度目とはニットを編むとき細く編んだりつめて編んだりする度合いのことです。

粗めに編むことを度目(どもく)を甘くすると言います。粗く編むと、我々が目付けといっている糸の量も少なめに上がります。度目を詰めて編むとしっかりした編地になります。度目も増えます。どの程度の度目で編むかはブランドとしての大事な主張の一つです。

二つ目は縮絨(縮絨の語考)です。粗く編んで強めに縮絨するとそれこそふんわりになるし、つめて編んで弱めに縮絨すれば固めの風合いになります。風合いは柔らかければいいというものでもないし、硬すぎてもカシミアの良さが発揮されないし、編地の度目と縮絨のバランスが重

要なんです。

UTOのカシミアセーターは長年愛用して戴きたく硬いです。

お手元のUTOのカシミアセーターは思ったよりフワリ感がないと感じられるかもしれません。UTOでは、どつちらかというところ、編みだての度目はつめ気味で、縮絨は浅めです。天然素材で繊細なカシミアは着用したり洗濯をするうちにどうしても劣化は否めません。お気に入りのセーターほど着用頻度は高いものです。長く愛用してもらおうにUTOのカシミアセーターはつめ気味に編み込みしています。そして何度が着用して洗い洗濯して戴くうちにより柔らかい風合いになります。想定として普通に着用してシーズン中3〜4回ぐらい手洗いで、3〜4年ぐらいたったころが一番風合いが良いんじゃないかと思えます。いわゆる馴染んでくるはずですが、もちろん着用の頻度や洗濯などの度合いの違いがでますが。

UTOの商品の中に『天使シリーズ』という、カシミアの風合いを最大限に生かしたロングセラーの商品があります。この商品は逆通常の商品より度目を甘くするというよりゲージを下げてスカスカに編むことでもっとも軽く柔らかい編地を表現したものです。この羽毛のような軽さとふんわり感で天使という名前をつけてベシックタイプのプルオーバーやカーディガン、ショールを展開しています。

着ていただいた皆さんから『肌に直接着ると想像以上の柔らかさで手放せなくなった』と好評です。これは編みと縮絨を逆手にとった成功例だと思っています。



忙中雑話・ニットのたわごと

がっちりマンデーと経済羅針盤



日曜朝7時半からTBSで放送されている『がっちりマンデー』という番組が楽しみです。元TBSのアナウンサーの進藤昌子さんと吉本興業のタレントの加藤浩次の司会で、日曜の朝の民放では珍しい経済番組です。がっちりマンデーという企業や経済トレンドなどを紹介する30分番組で面白くも勉強になります。同じ日曜の朝9時25分からNHKで『経済羅針盤』という経済番組があります。こちらも毎週見えています。

過日のがっちりマンデーは、上場して二年で時価総額15兆円(松下6兆、ソニー5兆)になったIT企業、グーグルの日本人村上市長がゲストで、社内のユニークな仕事ぶり、一方NHKの経済羅針盤は今最も注目の温泉地、熊本県黒川温泉の仕掛け人、新明館の後藤社長がゲストで誕生秘話と成長のポイントが紹介されました。

どつちらの番組も成功事例を紹介し分析する似たような内容の経済番組なんです。印象が違いすぎることに、なんでだろうかと疑問がわいてきます。

『がっちりマンデー』はカジュアルな服装、軽快な会話、加藤浩次の例の調子で、『社長！すごいじゃないですか！』などと場を和ませたり、ぼろっと本音が出るように話を盛り上げた上で、難しい話をお茶の間の人もすんなりわかるように誘導して、笑いながら30分があっという間に終わってしましますが、儲けのポイントはしっかりと頭にとります。

一方、NHKの『経済羅針盤』のゲストのファッションはビジネススーツのネクタイを外しただけみたいな服装(どつちで日本の経営者はあんなファッションなんですよ。神明館の後藤社長がカジュアルでした。話も台本どおりというように脱線することはありません。真面目で硬くまるで『お勉強』のような番組です。(NHKには悪いけど、僕の独断と偏見かも)

がっちりマンデーを見た後なので、どうしてこんなに番組を面白くするんだらうと不思議なくらいです。NHKだから砕けてはいけなんでしょうかかね?その上生放送らしいので余計な緊張が感じられます。何の為に生にするのか理解できませんが、作っている方はそのほうが良いと思っっているんでしょう。

ホテルを旅する

元、旅行屋のお勧め、墾丁、台湾

墾丁賞館 (ケンティンペンカン)

台湾を車で走りながら街を眺めていると看板がよく目につきます。それは我々に馴染みの漢字が多く、なんとなく意味が分かるので余計に目に入ってくるのでしよう。似て非なるものも結構あります。汽車は自動車のこと、停車場と書く駐車場に停まり、火車という物種なのが汽車とか電車です。驚いたり感心したりの漢字クイズはなかなか楽しいものです。

台湾第二の街、高雄(カオジュン)を過ぎてドンドン南下します。よく手入れされた田んぼの広がる道、自転車に鶏を満載の籠を載せて走っているおじさんとすれちがうと、なんだか昔前の日本の田舎を走っている懐かしい気分です。

台湾の最南端はカラビビ(岬)です。沖合いのバシー海峡は航行する船にとっては神経を使う通行に難しい海域だそうですが、訪れた時は日本では真冬ののに、南国特有な暖かい屋下がりでのんびりした引き潮の時でした。

岬の突端は青い海に落ち込む断崖というイメージがありますがこのカラビビ岬は極普通のところどころした石の遠浅の浜辺という感じで、拍子抜けの感じがしました。

この付近は台湾では海浜リゾートとして親しまれて、日本ではしばしば湘南海岸といったところでしょう。岬の付根に広大な敷地を持つジャングルのような墾丁自然公園があり、その公園に接してこの墾丁賞館があります。墾丁賞館には蒋介石總統の別荘だったというスタイルのカラビビ建築物はなく、ニューイングランドスタイルを取り入れたシンプルで、台湾總統の別荘にしては簡素で洒落た建物です。

南国は陽射しの強まる前の朝の散歩が一番気持ち良いですが、もちろんここでも例外ではありません。このホテルに滞在している間、一番の楽しみが、良く手入れされたランタナの垣根のオレンジ色の花に南国の蝶が次々と飛んできて吸蜜するのを見る事でした。



日本本土では最南端の鹿児島県佐多岬ですが見られないツマベニチヨウが吸蜜に来ます。こいつはモシロチヨウの仲間なのに二倍くらい大きく、真っ白の羽先のオレンジが鮮やかで、超高速のスピードでやってきて超高速で去っていきます。ミカドアゲハという日本では天然記念物の蝶もこんなに身近に見られるとは。それも一頭二頭(蝶は一頭二頭と数えます)ではないんです。十種類を超える蝶々と飛んできます。やっぱりここは蝶の宝庫なんだから、昔、昆虫少年だった僕にとって、養蚕の蝶を飼も振らないでワクワク、ドキドキしながら時間を忘れて眺めていた思いがあります。この蝶の楽園のようなシーンは今でも時々脳裏に現れます。

墾丁賞館の印象は感嘆の乱舞です。